青春時代を通じて得たもの

楢山　直樹（新24回生）

私が思春期である青春時代を通じて得たものは、目標を持つことの大切さや友人を持つことの大切さと本気でやることの大切さであった。

高校時代の三年間に得た大切な友人との交流は、社会人となった今でも続いている。それは、思春期の甘く切なく、そしてなつかしい思い出とともに現在まで続いている。

私事ではあるが、片思いの恋をすることによって勉強嫌いであり、特に英語が大の苦手であった私がその英語に強くなったことである。大学受験も進路の決定も、目標を明確に持つことに原点があった。石桜精神のように不屈の精神が必要である。

また、恩師の遠藤清安先生のおかげでもある。三年生の時に私立理科系のクラスに変更したいと思って先生にご相談したら、今のままのクラスで遠藤先生の物理の時間だけは自分の好きな科目の勉強をして良いと言っていただいたことである。

後日談ではあるが、先生はクラスの和を尊重したいという考え方であったとのこと。しかし、その当時、私自身は先生のご好意に甘えて、一番弱かった英語の勉強をさせていただいたことである。

第二志望の歯科大学は内定をもらったが、残念ながら、第一志望の歯科大学は落ちてしまい、浪人することにした。仙台の予備校へ通い始めて一カ月目で尊敬する父が急死したため、父が言っていた〝数字に強くなれ〟と言われていたのを思い出して全く違う文系の大学である明治大学への入学となった。

これが私の転機の一つであったが、そこで新たな目標を設定することとした。文系で資格を取るには何があるかと思っていた時に、大学での初めての授業で知り合った親友との出逢いによって税理士という目標を持ったことである。

その後結果として二八歳で資格を取得して勤務税理士となり、昭和六三年に独立開業して、平成八年の今日で早くも九年目となっている。

現在、お客様や周囲の人達のおかげ様で職員一一名の税理士事務所となっているが、いつも心がけている事は、職業会計人として仕事をさせていただいている自分と、仕事を通して社会に奉仕できることである。これも、事務所の職員や多くのお客様との出逢いがあったおかげ様である。

あの時の父の言葉を心に強く思って自分で明確な目標を持ち、税理士という資格を取ったことと、人間は志を持てば必ず実現するということである。あの青春時代の遠藤先生の暖かい言葉により今の自分があるということに、心より感謝をしている。

いろんなことがあるのが人生だが、常にプラス発想で目の前に現れる問題や障害を自分が成長できるチャンスととらえて、常に前向きな姿勢でやれば何事もできる。そんなことを教えられた青春の一ページが私の高校時代の三年間にはあった。

人間は、この世の中に必要とされて生まれてきたのであり、せっかく生まれてきたのであれば、社会に貢献して、家族・職員・お客様そして周囲の全てに感謝して、今日一日、そして一分・一秒を大切にして生きていきたいと思い毎日すべてのものに感謝して生きている。

（税理士　楢山直樹事務所所長）